

Close-up Interview (7月号 表紙の顔)

本橋 優美

YUMI MOTOHASHI

「私の中ではけっこういい自粛期間だったな、と前向きに捉えています」

プロ2年目の昨シーズンは宮崎プロアマオープン(準V)ほか5大会で入賞し、堂々ポイントランキングの14位に名を連ねた。“年下の先輩”坂本かや(49期)の躍進の陰に隠れて大きな話題とはならなかったが、10人いる51期の一番乗りでシード入りを決めた勢いと、まだまだ伸びしろを感じさせるボウリングは魅力的。本橋優美は今後要注目の“無印逸品”だ。(6月24日取材)



(Photo: 馬場高志)

プロテストは一発合格

—本橋プロがボウリングを始めたきっかけは？

祖父と父がここ(所沢スターレーン)の会員ボウラーで、子どものころからよく遊びで投げに来ていました。そのうち私もマイボールを作ってやってみようと思うようになったんです。本格的にやりだしたのは中2のときですね。

—競技会にも出るように？

13歳のときにオール関東ジュニアに出場したのですが、そこで今の鶴井亜南プロ(47期)と出会いました。JBCの存在を教えてもらって、私も入会したんです。いろいろな方とチーム戦をやったりして、楽しかったですね(笑)。

—JBC時代の最高成績は？

高2のときに、東京国体(2013年)の個人戦(少年女子の部)で準優勝しました。

「どうせやるならプロになろう」と(笑)。受験を決めたのがプロテストの半年前。本番1カ月前までは事務の仕事が続けていて、練習時間も限られていたが、一発で合格できてうれしかったですね。

—その状況で10人中3位の一発合格はすごい！ ちなみに、仲よしの同期は？

同じ埼玉の岡田友貴プロと渡邊瑠花プロです。友貴ちゃんとは国体でもチームを組んでいました。

2年目にジャンプアップ

—下半期から出場デビューはこれと目立った成績は残していませんが、2年目の昨年は4月の宮崎プロアマオープンでTV決勝優勝決定戦に初進出。序盤リードする展開で初タイトル獲得のチャンスでしたが、最後は1マーク差逆転されてしまいました。

凡ミスばかりで自滅しちゃいました(苦笑)。相手の佐藤まamiプロ(42期)に3フレのスプリット(③⑥⑦⑨)を取られてしまったことが、私の中ではすごくプレッシャーになりましたね。そこから力が入り過ぎて、いつも以上にボールが曲がらなくなりました。

—それでも、その後は7月の東海オープン3位をはじめ3大会で入賞して、ポイントランキングも1年目の62位から14位にジャンプアップ。51期の一番乗りでシード入りしました。

—一番乗りできたのは、やっぱりうれしいですね(笑)。

—シードプロになったことで気持ちに変化はありましたか？

今までより多くの方に名前を知ってもらえるようになったので、礼儀作法とか、社会人として当たり前のことをしっかり意識

するようになりました(笑)。

—今年の初戦は、ランキングの上位24人しか出場できない2月の女子プロオールスターゲームでした。リストライ禁止の新ルールで行われた初の大会ですが、本橋プロは以前から補助器具を使っていませんか？

プロテストまでは薄いリストライを着けていましたが、今年からルールが改正されることは分かっていたので、合格してすぐに外しました。ガッチリしたメカテクではなかったので、外しても大きな違和感はなかったですね。

—とすると、少なくとも初戦は新ルールが自身のアドバンテージになると思ったのでは？

それが、公開練習のときに初めて外して投げるプロの様子を見ていたら、みんな普通に投げていたの、逆に「ヤバいな」と(苦笑)。結果は9位でしたが、私はトータルピン勝負よりマッチゲームのほうが好きなので、総当たりラウンドロビンのオールスターゲームはあまり緊張せず、集中して投げることができたと思います。

キツくはなかった自粛生活

—本橋プロは年女。1月の賀詞交歓会では、東京運動記者クラブ(ボウリング分科会)からニュースター賞の表彰も受けて気分よくスタートを切ったと思いますが、年頭にはどんな目標を立てていたのですか？

「1勝する」と「シードをキープする」です。それがコロナのせいでこのような状況になってしまって…。

—ホント、大変な年になってしまいました。

この先試合がどうなるかも分かりませんが、開催が決まれば全力でそこに合わせていきたいと思っています。

—自粛期間中はどのような生活を？

約2か月間くらい投げられな



▶目標が定まらない中での調整は難しいが、明確な課題を持って取り組んでいる

かった間は、体幹や筋力のトレーニングを中心に、たまにウォーキングしたりしていました。

—トレーニング以外の余暇の過ごし方は？

ボウリングを離れて、これだけ長い時間ゆっくりできることがこれまでなかったので、けっこうだらけていましたね(笑)。たまに料理をしたり、お菓子を作ったりと、普段できないことができた時間でもあったので、気持ち的にはそんなにキツくありませんでした。以前ボウリングを離れたときと同じように、またボウリングに対する意識も高まったし、私の中ではけっこういい自粛期間だったな、と前向きに捉えています。

—その間の収入は？

私はスターレーンの所属で準社員という扱いなので、ありがたいことに休業期間中もまったく無収入というわけはありませんでした。

—センターが営業再開したのはいつでしたか？

6月1日です。その日の勤務後に投球練習も再開しました。最初はボールがすごく重く感じましたね。筋トレは続けていましたが、ボールを持って投げると違う筋肉を使うので筋肉痛にもなりました(苦笑)。

—先行きが不透明で調整も難しいと思います。延期とされて

いた宮崎プロアマと東海オープンも、ここへきて結局中止が決まりました。

去年悔しい思いをした分、今年は頑張りたいと思っていた大会が両方とも中止になってしまったのは、本当に残念です。

—今のところ(7月5日現在)、新人戦は開催予定ですね。

女子は9月の第1土曜日(が決勝)なので、やるとしたらそこがいちばん早いと思います。まだ時間があるので、少しずつピッチを上げていきます。今は半分くらいの仕上がりに。バックスイングの高さが戻っていない部分もあるので、試合に合わせて調整していきたいですね。

—去年は18位で、優勝は川崎由意プロ(48期)でした。

私はそのとき真後ろで観ていて、すごく感動したし、刺激も受けました。同期でまだ優勝した人はいないので、ここ一番乗りしたいですね(笑)。

(取材協力: 所沢スターレーン)

本橋プロと一緒に投げよう！ 近日開催のチャレンジマッチ

- 7月19日(日)19:00~
個人戦6G / 参加費3700円
- 7月24日(祝)10:30~
個人戦4G / 参加費3200円
※浅田梨奈プロ(48期)も参加
- 7月25日(土)10:30~
個人戦4G / 参加費2800円
開催センター: 所沢スターレーン

(注: スケジュールは変更になることがあります)



もとはし・ゆみ/1996年4月18日生まれ、埼玉県所沢市出身。158cm、右投げ。血液型A。2018年プロ入り(51期/ライセンスNo.570)。スターレーン所属。昨年度ポイントランキング14位(宮崎プロアマオープン2位、東海オープン3位)。



▶東京運動記者クラブからニュースター賞の表彰を受け、謝辞を述べる(7月20日品川プリンスホテル)

—プロを志すようになったのはいつごろですか？

高校卒業後はここで働いていたのですが、一度ボウリングを辞めて医療事務の仕事に就いたんです。でも、半年くらいして「やっぱり私はボウリングが好きなんだ」と改めて気付いて、